

普通自動二輪車の教習効果に関する調査研究（平成9年度）

道路交通法改正により、新たに大型自動二輪免許及び普通自動二輪免許が設けられ、併せて「より安全な運転行動のとれる運転者」の養成を目的とした新しい教習カリキュラムが導入された。そこで、指定自動車教習所において、旧教習カリキュラムで免許を取得した者と新教習カリキュラムで免許を取得した者を対象として、運転行動及び事故・違反の発生状況等を比較することによって、新教習カリキュラムによる初心者運転教育の効果を明らかにした。

- ① 新旧カリキュラムの受講生別に、自動二輪車による走行距離あたりの事故・違反件数を比較すると、いずれも新カリキュラム受講者の方が少なかったが、有意な差ではなかった。次に、事故・違反者比率に着目して、走行距離が5,000 km以内の新旧カリキュラム受講者を比較すると、新カリキュラム群が20%、旧カリキュラム群が23%で、その差は有意ではないが、新カリキュラム群の方が事故・違反が少ない結果になっていた。
- ② 新旧カリキュラムの教習内容を実走行での役立ち度という観点から受講生の評価を比較した結果、「カーブの安全走行」「回避運転」「危険予測運転」において、新カリキュラム群の方が役立ったと評価する者が多かった（表）。
- ③ 全体の教習時間数の満足度をみると、新旧カリキュラム群ともに約60%余りが満足している。一方、教習への不足感でみると、不足しているとする比率は、旧カリキュラム群の30%に対し、新カリキュラム群では23%と減少していた。新カリキュラム群の教習時間が十分であったとする具体的な運転場面は、雨の中の運転、危険回避運転、急ブレーキをかけた停止、カーブの多い山道での運転、急な坂道での運転、夜間運転であった。
- ④ 新カリキュラムに導入された教習項目の評価をみると、交差点の通行に関する教習は、80%以上がよく理解できたと回答している。「右直事故の原因と対応」及び「右折時のサンキュー事故」について、93%が良く理解できたと考えている。「左折車両との並進の危険性」「左折時の事故の原因」については90%が、よく理解できたと回答した。カーブの安全走行に関する教習でも、それぞれよく理解されていることが分かった。普通自動車との合同ディスカッションに対する評価は高くなかった。
- ⑤ 新カリキュラムで導入されたシミュレーター教習は、「事故の危険を伴う教習を安全に体験できた」が57%、「危険予測とその対応が体験できた」が64%となっている。しかし、「街中の走行を体験する」や「体験として身についた」など一般的な走行へのシミュレーター利用に関しては、約40%の評価にとどまっている。

表 新旧カリキュラム群別にみた教習項目の役立ち度

			役だった	どちらかといえ ば役だった	どちらかといえ ば役立たな かった	役立たな かった	無回答	合 計
カーブの 安全走行	件数	新カリキュラム群	233	178	43	16	9	479
		旧カリキュラム群	184	201	75	16	11	487
	構成比	新カリキュラム群	49.6	37.9	9.1	3.4	—	—
		旧カリキュラム群	38.7	42.2	15.8	3.4	—	—
回避運転	件数	新カリキュラム群	203	174	72	19	11	479
		旧カリキュラム群	173	172	102	30	10	487
	構成比	新カリキュラム群	43.4	37.2	15.4	4.1	—	—
		旧カリキュラム群	36.3	36.1	21.4	6.3	—	—
危険を予測 した運転	件数	新カリキュラム群	223	170	66	13	7	479
		旧カリキュラム群	182	197	82	14	12	487
	構成比	新カリキュラム群	47.2	36	14	2.8	—	—
		旧カリキュラム群	38.3	41.5	17.3	2.9	—	—

（注）構成率は、無回答を除く。